Tu sais, j'ai trouvé!

Vol.8

あのね、見つけた！

弘前の中のフランスを探そう！

「弘前×フランス」プロジェクト　弘前グローカル・アクション 発行

吉野町煉瓦倉庫
～酒造工場から文化の中心地へ～

（2012年時撮影）

赤レンガ倉庫といえば函館や横浜が有名ですが、実は弘前にも赤レンガ倉庫があるのです。ここでは、弘前にある赤レンガ倉庫の中でも特に歴史のある「吉野町煉瓦倉庫」について話していきたいと思います。

1907年（明治40年）に、福島藤助と呼ばれる人が弘前電灯会社跡地を譲り受けたことに端を発し、酒造工場を立ち上げたのが始まりでした。四季醸造と呼ばれる手法で吉野桜を始めとする日本酒が四季を通じて醸造されていました。例え自分の工場がつぶれても建物が残り、残った建物が弘前のためになるのならと個人のためではなく弘前のために尽力した人物です。

戦後から平成まで

戦後になると福島酒造から吉井酒造に引き継がれました。当時の吉井酒造の社長は吉井勇です。彼はりんごを発酵させて造るお酒シードルの伝統国であるフランスに自ら渡り研究しました。そして、55年（昭和30年）日本国内で初めてとなる、シードルの量産に成功しました。

その後、酒造工場としての役割を終え、米の保管庫などの役割を経て、徐々にイベントを行う場所としての側面が強くなっていきます。88年に美術家で弘前大学名誉教授の村上善男さんが「版画美術館」にすべきと提起したことを始めに、煉瓦館再生の会が発足され、91年には、「現代日本版画展」が行われ、96年には「'96ジャパンアップルフェア」が開催され、煉瓦倉庫の活用法を考える市民ワークショップが開かれ、5時間にわたるグループ討議が行われました。

これからのレンガ倉庫

これらの紆余曲折を経て、2002年、ついにこの赤レンガ倉庫で一大イベントが開催されます。弘前出身の現代美術家・奈良美智展「I DON'T MIND, IF YOU FORGET ME.」が赤レンガ倉庫で開催されました。来場者数はなんと約6万人と大成功を収めました。

さらに、05年「From the Depth of My drawer」や06年「A to Z」など、奈良さんの展示会を連続して赤レンガ倉庫で行い、大盛況を博したことから、弘前市でも取得の傾向を一層強め、ついに15年に赤レンガ倉庫は正式に弘前市所有のものになりました。弘前市は有効活用するべく様々な方策を打ち出し、17年、「弘前市吉野町緑地周辺整備等PFI事業」として「弘前市芸術文化施設（仮称）」を20年に美術館として開館することを決めました。

新設される「弘前市芸術文化施設」では美術館としての側面、コンサートやパフォーマンスなどのイベント施設としての側面、カフェやラウンジが併設されることによる地域のコミュニティセンターとしての側面を持ち合わせた非常にハイブリッドなものとなっています。カフェではシードルも楽しめるようになるといい、またフランス関連のイベントなども開催される可能性があり、弘前市とフランスがより身近なものになるかもしれませんね。

（人文社会科学部2年 相原寿貴・石沢翔龍、
取材協力：NPO法人 harappa 小杉在良）

弘前大学フランス語ホームページ
Place de la Francophonie/「フランコフォニー広場」
→ http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/french/

新着情報・おすすめ情報はTOPページで一目瞭然！Twitter・Facebookへも、サイドバーから簡単にアクセスできます。

Twitter「豆知識・豆情報も積もれば… 山となる！」
→ https://twitter.com/Hirodai_French

Cercle Francophone/フランス語サークル

C.F.

HPのオフ会活動 Cercle Francophone／フランス語サークルは、いつでも誰でも参加自由。
活動報告、イベント予告は、HP更新前でも、まずFacebookページでチェックできます！

ホームページ　Facebookページ　Twitter

編集：弘前大学人文社会科学部3年　芝原真帆
プロジェクトの正式名称：複言語・複文化教育プロジェクト（フランス語モデル）

「平成30年度弘前市市民参加型
まちづくり1%システム」対象事業

フランス×前川國男 suite(続き)

前回に引き続き、ここではフランス人のル・コルビュジエに師事した建築家、前川國男について紹介したいと思います。前川は新潟市に生まれ、東京帝国大学工学部建築学科を卒業した後、当時パリにいた伯父のおかげもあってル・コルビュジエのもとで建築を学びました。前川の母親が弘前の出身だったため、弘前にも8つの作品が残っています。

前川の初期の建築には赤色と青色がよく用いられています。実はこれは色鉛筆に由来します。かつて赤と青の色鉛筆が両端に付いている赤青鉛筆を使った覚えはありませんか。前川はこの赤青鉛筆を設計図の上に重ねて、色を決めていたそうです。前川らしい、遊び心のある色の決め方だと思いませんか。

弘前市民会館

〒036-8356　弘前市大字白銀町1番地6
電話：0172-32-3374

1964年、前川59歳の作品。
大きな容積をかかえホール棟とバルコニーなど管理棟の二つから構成される建築物です。2012年から2013年にかけて前川の意匠を守りつつ大規模改修工事が行われ、2014年に弘前市景観重要建造物に指定されました。そして今年2018年には、公共建築賞・優秀賞を受賞しました。ホール棟と管理棟の成層圏フルーの天井、ホールの木製の壁に施された特徴的な凹凸など、見所が多くあります。また、ホールの音響は多くの方から高い評価を得ています。

青森県立弘前中央高等学校講堂

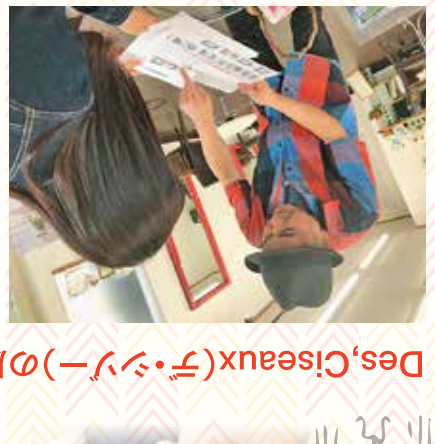
〒036-8345　弘前市蔵主町7番地1
電話：0172-35-5000

1954年、前川49歳の作品。
前川國男が弘前で二つ目に手掛けた建築です。弘前中央高等学校の創立50周年記念として設立されました。白を基調とする内部にフレンチグレーに塗られた鋼板の外壁、軒裏の赤色など色彩の工夫が見所です。また、2004年10月から2006年10月まで樹子の補修が行われ『前川國男の建物を大切にする会』が主体となって活動しました。2015年から2016年にかけては天井の工事も行われました。

参考文献：「日本近代建築の巨匠前川國男建築を訪ねる」弘前観光コンベンション協会
（人文社会科学部2年　奈良昌彦・石沢翔龍、
取材協力：弘前市役所　都市政策課）

あなたの身近にフランス！
～親子対談で新発見～

Des,Ciseaux（デ・シゾー）の原点



「弘前でフランスに関連する店はないか」とプロジェクトメンバーで話し合っていたところ、「新寺町にDes,Ciseauxというフランス語の美容室がある」との情報があがりました。さんとその店は、今年度メンバーの一人の父親が経営する店。意外にもお店のことをよく知らなかった娘が父親の仕事を聞く親子対談が実現することになりました。

若い頃東京の原宿と青山にあったヘアサロン「Mod's hair（モッズヘア）」で働いていた店主の齋藤泰弘さん。齋藤さんにとってその経験が原点になっているとのこと。

—東京時代のどのようなことが原点となったのか

「そもそもヨッスヘアはフランスの祭祭で、春夏と秋冬の年に二度、日本に新しいデザインが送られてきます。それを参考に日本のモッスヘアでも、パリなどはのデザインをお客様に提供していました。お客様の要望に合わせるというよりは、こちらが提供した沢山のデザインの中からお客様が気に入ったデザインを選んでもらうという形なんです。デザインの提供が僕たちの仕事です。そのコンセプトを独立した今でも意識しています。」

—具体的にはどのような意識で仕事をしているのか

「フランシャンシェーでのモデルたちのヘアメイク、フランシャン雑誌でのヘアメイク、青山や原宿のサロンでのモデルや芸能人たちのヘアスタイルを作った経験とその感性を、弘前のお客様たちに現代の時代に合わせてフィードバックしています。」

—これからこのお店をどのようなお店にしていきたいですか？

「弘前の女性って本当にきれいな人が多いんですよ。素材が素晴らしい。でもその女性たちを美しくできないからそれは僕たち美容師の責任だと思っています。お店をというよりは、弘前の街をどのようにするかという感じです。弘前の街を歩いている女性や男性を見て、あれ？なんかあの人おしゃれだなと思ってもらえるようにならないといけないと思います。簡単に言えば、弘前パリ化計画ですね（笑）実現は難しいかもしれませんが、そういう意識をもって仕事をしています。」

今回の取材を通して、お店のことやお父親の想いを初めて聞き、とてもいい経験になったと娘である本人も取材後話していました。店主の齋藤さんもとても気さくな方で、芸能人や有名デザイナーなどを担当した時のことや、フランシャンシェーに美容師として参加した時のお話を詳しく聞くことができて、とても興味深いものでした。齋藤さんが思い描くパリ化した弘前を見てみたいですね。

弘前パリ化計画！

【店名の由来】 Desはフランス語において、不定冠詞の複数形で、単数形では男性形のunと女性形のuneがありますが、複数形では男女の区別がありません。そのため、性別を問わずハサミを使ってより綺麗に、より素敵にという思いを込めたそうです。本来フランス語の文法としては、Desの後にコンマは付きませんが、区切りがわかりやすいように、カタカナ表記にした時に、コンマがついている方がいいかなという意味でコンマを付けたそうです。

（人文社会科学部2年　後藤乃愛・齋藤莉帆）

Des,Ciseaux　hair & make-up

〒036-8214
弘前市新寺町26-117リーンハイツ1F
電　話：0172-55-5461
営業時間：9:00～19:00
定 休 日：月曜日
URL：www13.plala.or.jp/DesCiseaux/